



人を・心を・時をつなぐ たなぐらまち  
～ほっとするわたしのふるさと～

# 棚倉町

福島県棚倉町 町勢要覧



棚倉町章

棚倉町の「た」の字を図案化したもので、  
町民の融和と団結、飛躍する町勢を象徴  
しています。



町の木「松」

大空に向かって高く伸びる優美な姿は、  
町の発展を象徴しています。



町の花「つつじ」

小さな花が寄り添うように咲く姿は、町  
の融和を象徴しています。

## 棚倉町勢要覧

〒963-6192 福島県東白川郡棚倉町大字棚倉字中居野33

T E L : 0247-33-2112

F A X : 0247-33-3715

<http://www.town.tanagura.fukushima.jp>

[企画・発行] 棚倉町役場企画情報課



# 棚倉人の 「誇り」「暮らし」「想い」

みちのくの要衝であり、棚倉藩の城下町として受け継がれてきた歴史と文化。

ここには、その伝統を守り、伝えるための棚倉人としての「暮らし」があります。

都会ではないけれど住みやすい、住み続けたいと思える充実した生活環境。

ここには、豊かさを実感できる棚倉人の「暮らし」があります。

伝行事やイベントを通じ

育まれてきた人々の絆と郷土愛。ここには、時代は変わっても

次の世代にも引き継いでほしい棚倉人としての「想い」があります。



棚倉町長  
湯座 一平

私たちの棚倉町は、城下町として長い歴史と伝統に育まれてきました。現在も、棚倉城跡には立派な堀や石垣が残り、町内には多くの文化財や伝統芸能、祭りがあり、歴史のロマンを感じさせるまちです。また、棚倉町は水と緑に囲まれ、四季折々に魅力的な表情があります。歴史や伝統に美しい自然風土が融合し、着実に発展を続けてまいりました。

さて、棚倉町では、平成36年度を目標年次とした第6次棚倉町振興計画を策定し、「人を・心を・時をつなぐたなぐらまち～ほっとするわたしのふるさと～」を将来像に、「自立と協働」の視点でまちづくりを進めています。本町の特色を生かし、これまで以上に住民と行政が連携し、誰もが笑顔で元気にいきいきと暮らしていく、そしてふるさとに誇りと愛着が持てる、そんなまちづくりを目指してまいります。

この要覧は、現在の棚倉町の姿、ここに暮らす人々の姿をまとめたものです。この冊子が橋渡しとなり、交流の輪が広がれば幸いに存じます。

## 【町民憲章】（昭和47年11月3日制定）

棚倉町は美しい自然に恵まれ、古い歴史をもつ由緒ある町です。この町をさらに希望あふれる町に育て後世に引き継ぐことは私たちのつとめです。このため町民はみんなの誓いとして、ここに町民憲章を定めます。

- ◎ 自然を愛し緑の町「たなぐら」をつくりましょう。
- ◎ 心身をきたえ健康な町「たなぐら」をつくりましょう。
- ◎ きまりを守り明るい町「たなぐら」をつくりましょう。
- ◎ 教養を深め文化の町「たなぐら」をつくりましょう。
- ◎ 勤労にはげみ伸びゆく町「たなぐら」をつくりましょう。

## 【位置と地勢】

本町は福島県中通りの南部に位置し、古くは棚倉城の城下町として、近世以降は東白川地方の中心地として独特の歴史と文化を育んできました。

町の総面積は159.82km<sup>2</sup>。東部には阿武隈山系のなだらかな丘陵地が、北部には阿武隈川の支流・社川沿いに平地が、南西部には八溝山系の山岳地帯が広がり、八溝山（標高1022m）を源とする久慈川沿いに平坦な農耕地が広がる自然豊かな町です。気候の特徴は北関東地域に類似し、積雪量が少なく、四季を通して温暖な住みやすい地域です。



	棚倉人の歴史
	棚倉人の誇り
	「育児サーカスおひさまくらぶ」
	棚倉町のイラストマップ
	棚倉人の想い
	「株式会社まち工房たなぐら」
	棚倉町の四季
	第6次棚倉町振興計画

## contents



## 伝統芸能を受け継ぐ 「八楓都々古別神社樂人会」



みちのくで最も早く稻作文化が花開いたとされる久慈川の流域。その上流に位置する本町には、稻作文化とゆかりの深い「都々古別」(ツツコ)に入れた稻の種を分けたという意味)と名付く神社が2社あります。

ひとつは、本殿が国の重要文化財となっている「馬場都々古別神社」。

そして、もうひとつが旧棚倉街道(国道118号)沿いにある「八楓都々古別神社」で、これもまた稻作文化とゆかりの深い「御田植」(国指定重要無形民俗文化財)と呼ばれる豊作祈願の民俗芸能が継承されています。

この芸能がいつから始まつたかは定かではありませんが、鎌倉時代の中期にはすでに行われていたと伝わっているので、かれこれ600年以上の歴史があることになります。

「御田植」が行われるのは、春まだ浅い旧暦の1月6日。「八楓都々古別神社」の拝殿を舞台に、水路の見回りから代かき、種まき、カラス追い、田植えに至る一連の作業を3部構成、16演目(所要時間約1時間半)で演じ分けます。

# 伝統文化の継承もまた、

## 歴史あるまちの誇り



「御田植」のクライマックスを飾る天狐(てんこ)の舞い



「八楓都々古別神社樂人会」  
楽長 武家一さんと  
息子の博文さん



### 歴史ある伝統芸能を受け継いでいく 「誇り」と「責任」を感じながら演じています。

八楓都々古別神社には「御田植祭」その他、「元旦祭」や「節分祭」「霜月大祭」などの年間行事があります。楽人会はそこで神樂を奉納するのがメインの活動なのですが、よその神社に呼ばれて舞いに行くことも。

楽人会のメンバーは基本的に旧社家の子息と決まっていて、誰もが入れるわけではありません。だからこそ、我々が伝統を守っていくんだという「誇り」もあるし、我々の代で絶やしてはいけないという「責任」もある。これまで途絶えることなくやってこられたのは、先人たちのこうした想いもまた、芸と一緒に受け継いできたからだと思います。

けれど少子高齢化が進む昨今、旧社家にこだわっていては立ち行かなくなる恐れも。そこで近年では旧社家にこだわらず、やる気のある地域の人にも思っています。

途中、「お互いご苦労さまにござります」や「ベーコ(牛)ベコベコベコ」 「ドロウリ、ベッタリ、ガンブリベッタリ」などの方言や擬音、宮司や見物人ととの掛け合いなどが入り、能狂言風のユーモラスな芝居仕立てになつているのも見所のひとつ。

このとき舞いや囃子を担当するのは「楽人」と呼ばれる旧社家の人々で、かつては神職を世襲とする10家10人(時代によつて多少の増減あり)によって構成されていました。

しかし、明治4年に世襲制度が廃止

されたのを機に「八楓都々古別神社樂人会」を結成。引き続き神社に伝わる伝統芸能を守つていこうと「御田植」をはじめ、「七座の神楽」や「太々神楽」など、旧社家に伝わる60近い演目を口伝によって継承してきました。

少子高齢化が進む昨今、伝統文化を受け継いでいくのは容易ではありませんが、それを継承していくのも歴史あるまちの誇り!と地域の人々の熱い想いもまた、途絶えることなく受け継がれています。



神社に伝わる伝統芸能を受け継ぐ「八楓都々古別神社樂人会」のみなさん



# 棚倉町の歴史

悠久のときを超えて  
政治・経済・文化の中心地として  
栄えてきた歴史あるまち

本町の歴史は古く、町内には石器時代から奈良・平安時代にかけての貴重な遺跡や出土品が数多く発見され、古くからここが政治・経済・文化の中心地であったことを物語っています。

南北朝時代に入ると赤館氏が山城を構え、その後、伊達氏（宮城県）や佐竹氏（茨城県）、白川結城氏（福島県白河市）などによる攻防が続いた。江戸時代になると北九州の立花氏が初代領主となります。

棚倉城を築いたのは築城の名手として知られる丹羽長重（初代城主）で、以来、8家16代の居城となり、戊辰戦争で落城するまでの240余年にわたり棚倉藩の城下町として栄えてきました。

明治時代になると廢藩置県や市町村制度が実施され、昭和30年に「棚倉町」「社川村」「高野村」「近津・山岡組合村」が合併。現在の「棚倉町」が誕生します。

## 平安時代に存在した東北でも有数の山林寺院跡

### 流廃寺跡（国指定史跡）



梵字と火炎上の模様が交互に配されています。

平安時代に建立された山林寺院で、発掘調査によると、山の上に大型の建物を中心に、9棟の大規模な建物跡が発見されました。ここから出土した鉄剣は、金と銀の象嵌が緻密に施され、現在東北地方では一例しか発見されていない珍しいものです。

当時、この地が国境に位置する重要な場所で、流廃寺は白河郡の宗教の中心的施設であったことが分かりました。

## 1200年以上の歴史を誇る2つの一ノ宮

### 八槻都々古別神社 (奥州一ノ宮、御田植／国指定重要無形民俗文化財)



馬場都々古別と同じ都々古別三社の一社で、「近津三社」の中之宮にあたります。祭神も馬場と同じ農耕の神と日本武尊（やまとたけるのみこと）です。旧暦1月6日の「御田植」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。木々の緑と神社のコントラスト、建物に施された彫刻も見事です。



### 馬場都々古別神社 (陸奥一ノ宮、本殿／国指定重要文化財)



都々古別三社の一社で、江戸時代には「近津三社」と総称された「上之宮」にあたります。祭神は東北を開拓した農耕の神と日本武尊（やまとたけるのみこと）が祭られています。本殿は東北では数少ない安土桃山時代の本殿建築を今に伝える貴重な造りで、国の重要文化財に指定されています。中世末期から現代まで、様々な時代の建物が見られ、最近はパワースポットとしても注目されています。

## みちのくの要衝として時を重ねた棚倉の地

### 赤館跡（赤館公園）



本町を一望できる標高345mの丘陵地にあり、江戸時代に棚倉城ができるまでは南北朝時代の赤館氏を筆頭に時の権力者がここに山城を築き、この地を治めてきました。関ヶ原合戦の時には、佐竹義宣が万を超える大軍を率いて在城していたと言われています。現在はお花見が楽しめる公園として町民の憩いの場になっています。



### 棚倉城跡（亀ヶ城公園）



元和8年（1622）に藩主となった丹羽長重（にわながしげ）が、この地にあった近津明神（都々古別神社）を馬場の地に移し、寛永4年（1627）に完成させた城です。みちのくの要衝だった棚倉は国替えが多く、慶応4年（1868）に戊辰戦争で落城・焼失するまでに8家16代の城主交代がありました。しかし、人々はいつも城主を温かく迎え入れたといいます。また、伝説によるとお堀に巨大な亀が住んでいて、この亀が水面に顔を出すと決まって城主交代があつことから、別名「亀ヶ城」とも。樹齢620年の大ケヤキ、春の桜、秋の紅葉も見どころです。





運動会に参加した育児サークル「おひさまくらぶ」のみなさん



ちょうど撮影に伺った時は、年に一度のビッグイベント「おひさまうんどうかい」が開催された日で、会場は100人近い親子連れで大いに盛り上がっていました。

いずれの時にも「サポートーさん」と呼ばれる子育て支援の有償ボランティアが子守を手伝ってくれるので、下の子を預けて上の子と思い切り遊んだり、母親同士でおしゃべりを楽しんだり…。日頃なかなかできないことがここに来ればできる。そんな幼い子を持つ母親目線のサポートがあるのも、「毎回参加したい」「友達に勧めたい」と思わせる理由のひとつになっています。

現在、会員は41家族（幼稚園に入る前の子とその保護者）。年会費400円を払えばいつでも入会できます。主な活動は、月に1回「子どもセンター」に集まり、親子で自由に遊びながら交流を深める例会と、月に1回のペースで開催しているピクニックや幼稚園訪問、運動会やクリスマス会などの季節イベントです。

とOBC会を結成。情報交換や交流の場を設けたのがこの会の母体となりました。

### 自然が豊かでお祭りなどの地域イベントも盛ん! 子どもを育てるにはいい環境です。

子どもが幼稚園に入る前の親子は、母親同士のつながりもないで孤立しがちなんです。まして結婚を機に棚倉に越してきた母親なら、なおさらのこと。実は私も4年前に福島市から棚倉に嫁いで来た一人。ママ友ができる「おひさまくらぶ」があってホント助かったので、今後も親子が気軽に参加できる楽しい会にしていきたいと思っています。

それから棚倉は自然豊かなまちなので、季節を感じながら子育てができるのがいい。棚倉城跡の桜や紅葉を見に行ったり、お堀の鯉にエサを上げたり、ど

んぐりを拾ったり…。郊外にはアウトドアが楽しめる山本不動尊のキャンプ場もありますからね。

あと棚倉は夏祭りや秋祭りなど、地域イベントがとても盛んな地域なんです。福島にいた時はお祭りは見に行くもの。でも、ここだと参加するのが当たり前ですからね。それだけ地域のつながりが強く、ご近所はみんな顔見知りなので安心感もあり、子どもを育てるにはいい環境だと思います。それから生活に必要なものは一通り揃っているので、暮らしやすさの点でも満足しています。



育児サークル「おひさまくらぶ」  
会長 藤田 有美さん



保健福祉センターで開催された「おひさまうんどうかい」でのひとコマ

## 子育てのしやすいまちは、

## 暮らしやすいまち



少子高齢化が急速に進む中、安心して子どもを産み、育てるための環境整備は、そのままの暮らしやすさにも直結した緊急の課題です。

本町では「子どもセンター」や「保健福祉センター」主催の子育て講座や育儿相談会の他、放課後児童クラブや預かり保育の充実、子育てボランティアによる読み聞かせや緊急時の子ども預かり事業など、子育てのしやすいまちづくりを官民一体となつて進めてきました。

平成12年に幼稚園に入る前の親子が気軽に集える場を！と結成された育儿サークル「おひさまくらぶ」もそのひとつです。

この会の特筆すべきところは、母親たちが自主的に立ち上げ、会の運営すべてを行っている点です。きっかけは平成5年に町が主催した育儿教室。そこには参加した母親有志が「教室が終了しても定期的に集まる機会を作ろう」

### 幼稚園に入る前の親子が集う 育児サークル「おひさまくらぶ」





## 棚倉の暮らしMAP

# 町民に「住みやすい」 「住み続けたい」と思わせる 暮らしやすいまち



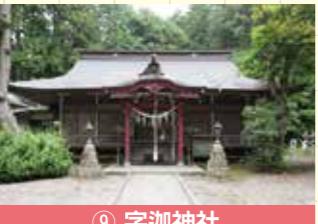
見どころが  
いっぱい!

まちを南北に走る国道118号とJR水郡線沿いに市街地が開けている本町。決して都会ではないけれど「住みやすい」「住み続けたい」暮らしやすいまちです。また、郊外に足を伸ばせば自然とのふれあいやさまざまなレジャーが楽しめるのも大きな魅力です。



⑩ 蓮生寺

滝のように流れる枝垂れ桜が有名なお寺です。



⑨ 宇迦神社

長い階段を登りつめると、棚倉の鎮守として親しまれている宇迦神社があります。



⑧ 長久寺

寺の山門は、棚倉城の南門を移築したもので、唯一現存する棚倉城の建造物です。



⑫ ルネサンス棚倉

テニスや水泳などのスポーツ施設の他、研修や宿泊、食事や温泉施設なども完備したテーマパークです。



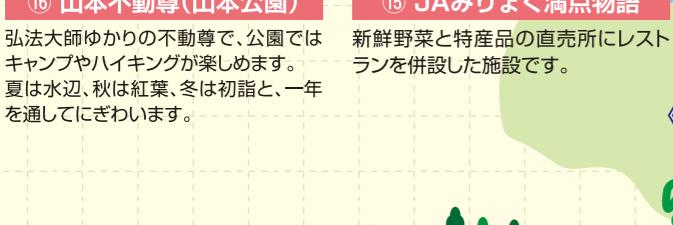
⑭ 花園しだれ桜

池の水面に映る“逆さ桜”は必見です。多くのカメラマンが訪れます。



⑬ 棚倉町茶室

棚倉藩主・阿部正備(あべまさかた)ゆかりの茶室を移築・復元したものです。



⑯ 山本不動尊(山本公園)

弘法大師ゆかりの不動尊で、公園ではキャンプやハイキングが楽しめます。夏は水辺、秋は紅葉、冬は初詣と、一年を通してにぎわいます。



⑪ 蓮家寺

国重要美術品の銅鐘、町指定文化財の山門、松尾芭蕉句碑など、数多くの文化財が残されています。



① 棚倉町文化センター「倉美館」



② 棚倉町総合体育館



③ 棚倉町立図書館



公共交通機関

JR水郡線が南北、郡山市、水戸市に通じ、JRバス白棚線と福島交通白河棚倉線が白河市に通じています。



⑤ 小富士山(こふじさん)

標高446mの山頂からは那須連峰の雄大な景色が眺められます。



④ 八溝山(やみぞさん)

標高1022mの奥久慈最高峰の山で、久慈川の源流に映える紅葉は見事です。天気が良ければ、富士山が見えることもあります。



Message



「株式会社まち工房たなぐら」

6代目社長 大平 雅俊さん  
主要スタッフ 伊藤 敦さん

### 会社設立の出資金が予想以上に集まり、町民のまちづくりに対する熱い想いを感じました。

この会社を設立する際、趣旨に賛同する出資者を商工業者を中心に広く募ったんです。当初の予定では3000万円集めればありがたいと思っていたのですが、最終的に当初の予定以上の金額が集まってしまって…。それだけこのまちを良くしたい！とみんな思っていたんでしょうね。その熱い想いに感動すると同時に、期待の高さに身が引き締まりました。

棚倉はもともと歴史と文化のある城下町ですから、まちづくりや観光客の誘致に使える素材はたくさんあると思うのです。しかも、出資金を見ても分かる通り、人情に厚いまちなので一致団結すれば新しいものを生み出すパワーもある。

それをどう生かすか？が私たちの仕事なのですが、会社と言っても報酬が出るほど売上がないので、スタッフ全員ほぼボランティアのようなもの。自分の本業との掛け持ちは限界がありますが、次の世代には、このまちで実家の商売が続けられる賑わいのある中心市街地を残してあげたいと思っているんです。そのためにも活性化に結び付くことを、スタッフの熱意とアイディアに頼りながら積み重ねていきたいです。



ネット販売でも人気のある「美泥そーぷ」



城下町の歴史や文化を知つてほしい。城下町ならではの風情や味覚を味わつてほしい。そんな想いで始めたのが、中心市街地を会場にした様々なイベントです。これまでウォーキング、浴衣コンテスト、ビアガーデン、スイーツフェスティバルなど、人々がまちなかに集まる「きっかけ」を数多く作っていました。震災を機に始めたキャンドルナイトもその一つ。子どもたちが作った数千本のキャンドルが、町民憩いの場「棚倉城跡」を明るく照らし、ボランティアを含め、大勢の方が集うきっかけとなっています。

また、かつて海底だった地層が隆起した場所から採掘した「海泥」を使った洗顔ソープを商品化するなど、地域資源を生かした特産品の開発にも力を入れ、それをインターネットで販売することで棚倉の名前を全国に発信しています。

20代の若者から、お父さん世代の方々まで、幅広い年代が参加するまち工房たなぐら。城下町への熱い想いを力に変えて、賑わいと活力のあるまちを次の世代にも引き継いでいきたい。ふるさと棚倉を愛する「まち工房たなぐら」と町民すべての願いです。

# 歴史と文化、人情のあるまち 棚倉を次の世代へ



まち工房たなぐらの活動の拠点となっているのが、町屋の風情を残した「旧上田邸」。魅力的な商業空間を作るために始まった「集いの小路形成事業」で、店舗やギャラリー、ポケットパークなどにリノベーションされました。一角の蔵がまち工房たなぐらの事務所として利用され、城下町の景観を生かしながら、住民や来訪者が気軽に立ち寄れる交流や情報交換の場として再活用しています。

まち工房たなぐらの活動の拠点となっているのが、町屋の風情を残した「旧上田邸」。魅力的な商業空間を作るために始まった「集いの小路形成事業」で、店舗やギャラリー、ポケットパークなどにリノベーションされました。一角の蔵がまち工房たなぐらの事務所として利用され、城下町の景観を生かしながら、住民や来訪者が気軽に立ち寄れる交流や情報交換の場として再活用しています。

**まちの活性化を目指す  
「株式会社まち工房たなぐら」**



たなぐら夏まつりで行われた浴衣コンテスト



ボランティアと作りあげるキャンドルナイト



# 秋

## 🍁 秋を彩る 紅葉



## 🍁 棚倉産コシヒカリ

棚倉町は古くから米づくりが盛んな地域で、中でも「棚倉産コシヒカリ」は美味しいと好評です。



# 棚倉の四季

TANAGURA FOUR SEASONS

## 雪 棚倉いちご

町内のいちご農家では「ふくはる香」や「とちおとめ」が12月～翌6月に掛けて生産され、市場でもその品質が高く評価されています。春先には「いちご狩り」が楽しめます。



## 雪 萺子

城下町として栄えた本町は茶道文化が盛んな地域で、町内の菓子店ではさまざまな名菓が売られています。



12月第2  
土・日

## 霜月大祭

八観都々古別神社の祭礼で、五穀豊穰を祈願して「七座の神楽」や「太々神楽」などが奉納されます。境内やその周辺では「八観市」が開かれ、名物のユズやショウガなどを売る露店が立ち並びます。



旧暦  
1月6日

## 雪 御田植祭

八観都々古別神社の祭礼で、豊作祈願の神楽「御田植」が奉納されます(詳細はP3～4を参照)。



# 冬

# 春



## ✿ 各地で咲き誇る桜



## ✿ 棚倉城跡のツツジ

赤や紫、白、色とりどりのつつじが、城跡を鮮やかに染めます。



4月中旬  
土・日

## ✿ 十万石棚倉城まつり

通称・桜まつりと呼ばれ、本町が桜に彩られる頃、城跡を舞台に開催されるイベントです。当日は武者行列が町内を練り歩き、火縄銃の演舞なども披露されます。また、会場内にはイベントステージや野点・特産品コーナーなどが設けられ、多くの観光客で賑わいます。



季節の移ろいや大地の恵みが暮らしに彩りを与えてくれる  
**自然豊かなまち**

## 🌿 棚倉ブルーベリー

6月～9月に掛けて生産される町の特産品で、生食の他、ジャムやジュースなどに加工され、贈答品としても人気があります。



## 🌿 夏まつり

8月14日

歩行者天国の目抜き通りにはさまざまな露店が立ち並び、夜はよさこい踊りなどが行われます。



## 🌿 夏野菜

町内にある直売所では夏野菜はもちろん、1年を通して新鮮な野菜や果物などを購入することができます。



## 🌿 地域の花火大会



# 夏

## Concept 1

はぐくむ [子育て・教育・文化]



**将来を担う人材と文化を育むまち**

まちの未来を担う子どもたちは町の宝です。本町では子どもたちの夢と生きる力を育むキャリア教育や人間性豊かな心と健全な体を育む学校教育を充実させるとともに、就学前の子育て支援にも力を入れ、官民一体となって安心して子どもを産み、育てることができるまちを目指します。

また、誰もが生き生きと健康的に暮らせるよう、生涯学習や生涯スポーツを推進させるとともに、町内に残る貴重な歴史遺産や文化遺産の保護・継承に努め、城下町・棚倉にふさわしい文化的なまちを目指します。

## Concept 2

あんしん [防災・環境・生活]



**安心して暮らせる思いやりのまち**

災害時や緊急時には住民同士の助け合いがいかに大切かを先の震災で痛感しました。本町では自主防災組織や地域コミュニティを充実させるとともに、消防や救急、危機管理体制の連携強化を図り、自助・共助・公助の揃った災害に強いまちを目指します。

また、安全な地域社会を確保するため、交通安全や防犯活動の推進、多発する消費生活トラブルの防止などに努めるとともに、生活環境の整備や再生可能エネルギーの普及、ゴミの減量化や再資源化などを推進させ、自然と共に存できるまちを目指します。



**人を・心を・時をつなぐ  
たなぐらまち  
～ほっとするわたしのふるさと～**

まちづくりの主役は、その町に暮らす人々です。町民一人ひとりを尊重し、心をつないで助け合い、支え合ってまちをつくります。また、豊かな自然を守りながら産業を発展させ、快適で、暮らしやすいまちをつくります。そして、子どもたちに自信と誇りを持って我がふるさとを引き継いでいけるよう、「自立」と「協働」のまちを目指します。

Concept 1	はぐくむ [子育て・教育・文化]	将来を担う人材と文化を育むまち
Concept 2	あんしん [防災・環境・生活]	安心して暮らせる思いやりのまち
Concept 3	すこやか [保健・福祉・医療]	健やかにみんなで支え合うまち
Concept 4	いきいき [産業・観光]	活気に満ちた活き活きとしたまち
Concept 5	むすぶ [道路・交通・情報]	みんなを結ぶ安心で快適なまち
Concept 6	きずく [協働・行財政]	みんなで築く力強いまち

## Concept 5

むすぶ [道路・交通・情報]



車社会の地方においては、道路や交通基盤の整備は快適な暮らしに直結した優先課題です。本町では地域と地域、人と人を結ぶ幹線道路や生活道路の維持・管理に努めるとともに、路線バスやJR水郡線など公共交通機関と連携を深めながら、交通弱者や交通空白地に対応した新たな交通体系

## みんなを結ぶ安心で快適なまち

車社会の地方においては、道路

を目標します。

また、公園緑地の整備や山林・河川の保護・保全、市街地と農地の共生などバランスのとれた土地活用を進めるとともに、情報通信技術の整備や利活用を図り、住民サービスの向上と事務の効率化を目指します。

## Concept 3

すこやか [保健・福祉・医療]



いくつになっても健康で長生きしたい。これは町民誰もの願いです。本町では保健・福祉・医療が連携を深めながら病気の早期発見・早期治療に努めるとともに、町民の自主的な健康づくりや生活习惯病対策を行い、健康寿命の延伸を目指します。

また、高齢者や障がい者がいつ

までも住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、高齢者・障がい者福祉を充実させるとともに、介護予防や生きがいづくり、ボランティア活動の支援、地域での見守りや相談機能を充実させ、誰もが尊重されるまちを目指します。

## 健やかにみんなで支え合うまち

## Concept 6

きずく [協働・行財政]



多様化する地域の課題にきめ細かく対応していくためには、住民・事業者・行政が一体となつた協働のまちづくりが欠かせません。本町では住民参画や広報、広聴活動、男女共同参画社会の推進を図るとともに、住民同士の交流や地域間交流、国際交流を促進させ、人と人が出会い、強い絆で結

## みんなで築く力強いまち

多様化する地域の課題にきめ

ばれた元気なまちを目指します。

また、限られた行財政資源や民間の活力を最大限活用しながら行政サービスの向上に努めるとともに、財源の効率的かつ効果的な計画配分で健全な財政運営を目指します。

## Concept 4

いきいき [産業・観光]



観光においては、本町が有する城下町の町並みや久慈川沿いの豊かな自然、町内に点在する歴史遺産や文化遺産、滞在型スポーツ施設「ルネサンス棚倉」など、既存の観光資源の整備・活用を進めるとともに、新たな観光資源の発掘や観光客を温かく迎える環境づくりを促進させ、「行つてみたい」

「また訪ねたい」と思わせる魅力ある観光のまちを目指します。

農林業や商工業においては、後継者の育成や特産品のブランド化、都市と農村の交流事業、商店街の活性化や企業誘致などに力を入れ、地域雇用の安定を目指します。

## 活気に満ちた生き活きとしたまち

「また訪ねたい」と思わせる魅力ある観光のまちを目指します。